



SDGs レポート 2021

できるところから、はじめよう

# 環境ステートメント

地球温暖化による気候変動は、人間の生活や自然の生態系に様々な影響を与えており、例えば、気温の上昇、海面水位の上昇、農作物への影響などが観測され始めています。その原因は、二酸化炭素（Co2）濃度の上昇が起因しており、二酸化炭素の削減を目指す低炭素の社会を実現していく必要があります。

株式会社大倉は、「社員ひとりひとりと環境に配慮する責任や想いを共感できる活動」、「必死に頑張るのではなく、無理のない柔軟な環境負荷削減を行う活動」を目指して行きます。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



# エコドライブ活動



- ゆっくり加速、ゆっくりブレーキ、ゆとりの車間距離、決して急がず、乱暴な運転をしない。ひとつひとつの積み重ねが、環境負荷の削減と交通事故の減少につながります。

## I. 営業車

項 目			上 期	下 期	年 計
2021年	給油量	ℓ	13,052.0	11,313.0	24,365.0
	走行距離	Km	244,617.0	212,602.0	457,219.0
	燃 費	Km/ℓ	18.7	18.8	18.8
2020年	給油量	ℓ	12,812.0	12,063.0	24,875.0
	走行距離	Km	228,399.0	222,964.0	451,363.0
	燃 費	Km/ℓ	17.8	18.5	18.1
【 評 価 】			○	○	○

## II. ダンプトラック

項 目			上 期	下 期	年 計
2021年	給油量	ℓ	50,877.0	62,316.0	113,193.0
	走行距離	Km	133,304.0	162,062.0	295,366.0
	燃 費	Km/ℓ	2.62	2.60	2.61
2020年	給油量	ℓ	66,372.0	65,979.0	132,351.0
	走行距離	Km	160,545.0	163,921.0	324,466.0
	燃 費	Km/ℓ	2.42	2.48	2.45
【 評 価 】			○	○	○

- 営業車においては、26台中19台がハイブリッド車両へ切替えている。燃費の更なる向上については難しい状況ではあるが、前年比較で向上した結果となった。  
ダンプトラックは、大型ダンプ4台と3tダンプ1台が稼働している状況で、ダンプは燃費効率の悪い車両ではあるが期中に1台新車に入替えがあり、前年比較では燃費が向上した結果となった。

# アイドリング ストップ活動



- 仕事にメリハリをつけて、エンジンをかけたままにしないで、止めるときは止める。 unnecessary idling is stopped, leading to fuel savings and reduction of environmental burden.

## 1. 重機

項 目			金沢 (40%)	瑞穂 (40%)	大井 (50%)	センター (40%)
2021年	総時間	ℓ	5,080.0	5,494.0	2,368.0	1,888.0
	アイドリング	h	1,738.0	2,316.0	807.0	792.0
	アイドリングストップ	%	34%	42%	34%	42%
	扱い量/給油量	t/ℓ	9.27	8.25	7.41	25.23
2020年	総時間	ℓ	4,641.0	5,752.0	2,238.0	1,694.0
	アイドリング	h	1,603.0	2,618.0	1,140.0	668.0
	アイドリングストップ	%	35%	46%	51%	39%
	扱い量/給油量	t/ℓ	8.38	7.76	10.19	25.39
【 評 価 】			○	×	○	×

項 目			奈良輪 (40%)	田倉 (40%)		
2021年	総時間	ℓ	5,894.0	4,608.0		
	アイドリング	h	2,354.0	1,501.0		
	アイドリングストップ	%	40%	33%		
	扱い量/給油量	t/ℓ	12.01	7.80		
2020年	総時間	ℓ	5,927.0	5,987.0		
	アイドリング	h	2,198.0	1,901.0		
	アイドリングストップ	%	37%	32%		
	扱い量/給油量	t/ℓ	11.28	5.55		
【 評 価 】			○	○		

- 瑞穂と南袖センター以外は目標達成となった。瑞穂は目標未達成であるが、前年比較では改善され良い傾向にある。南袖センターは待機室の空調使用の制限がかかり、アイドリング時間が増加した。  
作業効率 (t/ℓ) は大井が低下したが、これはオペレータが新人になり重機操作にまだ慣れていないため。他は良好な結果となった。

# 節約活動



- 日常使っている「電気」「水道」「ガス」などを決して無理をするのではなく、適正な使用のもとで使えば、環境負荷の削減につながります。

## I. 電気

項 目		上 期	下 期	年 計	
2021年	使用量	Kwh	78,747	81,618	160,365
	金 額	円	2,015,433	2,298,239	4,313,672
2020年	使用量	Kwh	86,880	78,927	165,807
	金 額	円	2,182,794	1,967,606	4,150,400
【 評 価 】		○	×	○	

## II. 水道

項 目		上 期	下 期	年 計	
2021年	使用量	m3	439	416	854
	金 額	円	94,197	89,825	184,022
2020年	使用量	m3	530	724	1,254
	金 額	円	117,884	108,276	226,160
【 評 価 】		○	○	○	

## III. ガス

項 目		上 期	下 期	年 計	
2021年	使用量	nm3	138	700	838
	金 額	円	35,571	113,331	148,902
2020年	使用量	nm3	171	676	846
	金 額	円	35,727	90,613	126,340
【 評 価 】		○	×	○	

- 電気、上水、ガス、すべて年間合計で良好な結果となった。  
料金（金額）は電気、ガスの高騰で増加となった。

## 節約活動



- 日常使っている「電気」「水道」「ガス」などを決して無理をするのではなく、適正な使用のもとで使えば、環境負荷の削減につながります。

### IV. 軽油

項 目		上 期	下 期	年 計	
2021年	使用量	Kwh	1,043	935	1,978
	金 額	円	133,920	128,952	262,872
2020年	使用量	Kwh	1,083	958	2,041
	金 額	円	111,282	111,833	223,115
【 評 価 】		○	○	○	

- 事務所の発電機で使用。良好な結果となった。

# 啓蒙活動



- ひとりひとりが環境活動の大切さを意識する為の広報活動を行えば、小さな変化でも環境負荷の削減につながります。

No.	項目	実施内容	活動実績
1	クールビズ	適正温度を推奨	○
2	ウォームビズ	適正温度の推奨	○
3	電気の消灯	昼休み、必要のない場所での消灯	○
4	ゴミの分別	適正な分別と処分	○
5	コピー用紙再利用	裏紙利用	○

- 継続の取組みで、今期も実行できた。  
空調の温度管理は業務に支障がない範囲で連暖房ともに一年を通して行っており、中間期は、なるべく使用しないよう心掛けている。  
照明は小まめな消灯で節電に努め、PCも外出時の電源OFFに努めた。  
ゴミの分別とコピー用紙の裏紙利用もしっかりと行った。

# その他活動



## ■ 企業活動で環境等に配慮した活動内容を把握しよう。

- 建設発生土の把握  
砂採取場跡地に建設発生土を埋め戻すことで、持続可能な社会に貢献しています。  
田倉最終処分場受入数量  
53期実績 367,898.5m<sup>3</sup>
- 産業廃棄物の把握  
廃棄物処理法を順守し、自社排出、収集運搬を適正に管理しています。  
収集運搬 4,739 t  
排 出 235.81 t
- 環境関連法令遵守の把握  
「環境関連法令取りまとめ表兼順守点検表」で法令・条例の順守を確認し、適正管理に努めています。  
廃棄物適正処理
  - ・ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）
  - ・ （東京都）廃棄物の処理及び再利用に関する条例
  - ・ （神奈川県）廃棄物の不適正処理の防止等に関する条例
  - ・ （千葉県）廃棄物の処理の適正化等に関する条例土壌汚染対策
  - ・ 土壌汚染対策法
  - ・ 千葉県残土条例 ・ 富津市残土条例 ・ 神奈川県残土条例資源循環（リサイクル）
  - ・ 家電リサイクル法 ・ 自動車リサイクル法 ・ 建設リサイクル法その他
  - ・ フロン排出抑制法 ・ 騒音規制法 ・ 振動規制法 ・ 消防法
  - ・ 自動車Nox・PM法 ・ オフロード法 ・ 浄化槽法
- 社外活動  
特になし



## 総括と今後について

### ●今年度の活動について

- ・エコドライブ活動（営業車・自社ダンプの燃費効率管理）

営業車、ダンプともに全体で燃費が向上し良好な結果となりました。

- ・アイドリングストップ活動（重機作業の効率化と管理）

目標を達成できない拠点もありましたが、前期比較では改善され良い傾向にあり、全体的にも概ね良好な結果となりました。

- ・節約活動（電気・ガス・水道の使用状況の把握）

働き方改革による完全週休二日制の導入もあり、使用量を削減することが出来ました。しかし光熱費の高騰で料金（金額）は増加した結果となりました。

- ・啓蒙活動（社内外への広報活動）

半期ごとに社内会議で活動実績の報告をしましたが、その中で多数意見が出ましたので、今後の活動に反映させていきたいと考えています。

### ●今後について

今までの取組みをベースにしながら、当社で環境負荷が多い重機の管理に注力していきます。重機に関してはアイドリングストップ活動だけでなく、燃料使用量、燃費効率、作業効率も重視し総合的に管理をしていきます。

そのために重機オペレータと相互に情報共有し、拠点ごとの特長なども踏まえて、さらに有効な活動計画や対策等を検討していきます。

啓蒙活動は今回一番弱かった部分なので、今後も重要な課題として環境委員会を中心に効果的な広報活動等を考えていきます。

環境推進委員会

## 株式会社 大 倉

〒235-0023 神奈川県横浜市磯子区 3 丁目 7 番 4 号

TEL (045) 751-1441 <http://www.ohkura-web.co.jp>

報告対象期間 2021年7月～2022年6月